

一名白花太乙蓮三才圖繪 一瓣蓮秘傳 旱金蓮 觀音芋共同 佛龕花汝南圃史 御魁花花曆 天荷

芋同上

水草ナリ、葉澤瀉ニ似テ厚ク尖リ黃綠色、長サ七八寸、濶サ三四寸、一根ニ叢生ス、莖ハ青芋サトウイモノ如シ、肥タルモノハ長サ二尺許、夏月根上ニ短莖ヲ抽テ花ヲ開ク、只一瓣ニシテ長サ三四寸、濶サ一寸半許、白色中ニ長蕊アリ、天南星ノ蕊ノ如シ、集解ニ如觀音像在圓光之狀ト云ハコレヲ指ナリ、圓光ハフナゴコウノコトナリ、一種ザゼンサウ、一名ダルマサウ、牛ノミ、州ト云アリ、花ノ形達摩ノ坐禪ノ狀ニ似タリ故ニ名ク、春花ヲ開ク紫黑色天南星ノ花ヨリ濶ク短ク、長サモ相侔シ、中ニ蕊アリ、南星ノ如シ、葉ハ海芋ヨリ短ク濶シ、コレハ地湧金蓮ナリ、秘傳花鏡ニ出ヅ、南寧府志ニ湧地金蓮ト云フ。○中略

增真ノ海芋ハ文化年中琉球ヨリ來ル。○中略ミヅバセウヲ海芋ニ充ツルハ誤ナリ、

〔剪花翁傳三月開花〕水芭蕉 花白、開花四月下旬より五月に咲、株春彼岸水田に植ベし、成長すれば一尺五六寸におよぶ、盆栽のものは少しく育也、芭蕉の剪花は半月たもつ也、此花は三日保つべし、越中立山の半に大澤あり、此所に生ずるもの、大き七八尺に及ぶよく水氣を逐ふ是眞の澤瀉也と、古矢氏の説なり。

〔成形圖說二十二〕石芋イシイモ 相模等の國にていふ、又水芭ドクモ、毒芋ドクモ 亦曰大師芋、俚諺に曰、むかし弘法大師ドクモ 道に饑て芋ドクモ を洗ふ婦人の遇へるに之を乞て與ざりしより、其芋遂に毒艸ハセヤイ に化りとぞ、是其事を誣て神にせんと、實は弘法の冤と云べし、芭蕉芋ハセヤイ 南島はせをのハセヤイ 轉る、熊坂信倍クサカサヒベ 古乃舌シタ 東奥牛舌シタ に似たり、○中略 此花

此自生の毒芋なり、莖葉深緑にして光澤あり、博物志云、野芋シロイモ 小于家芋、食之殺人、蓋蘇也、本艸中に野芋は大毒不可啖之よし見えたり、しかるに南島の地此もの多く、一たび荒歎に遇て死を免かれたき時は已ことを得ずして、此ものを掘とり砂糖に和て煮食ふことあり、而其毒に中